

# 災演算

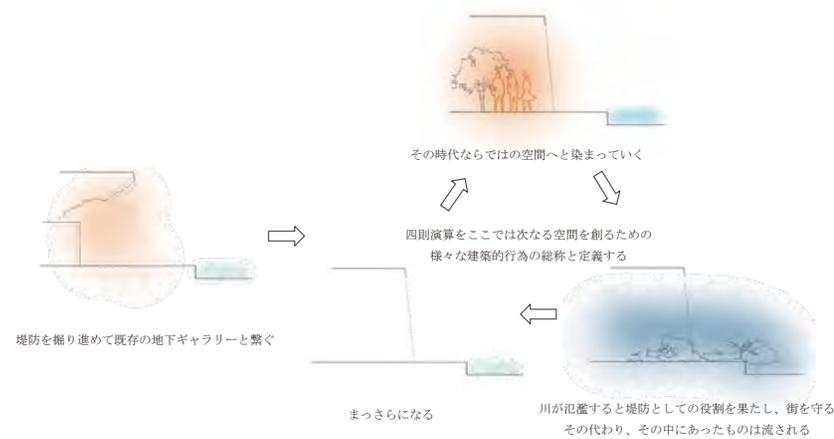
洪水とともに更新される船着場ギャラリー



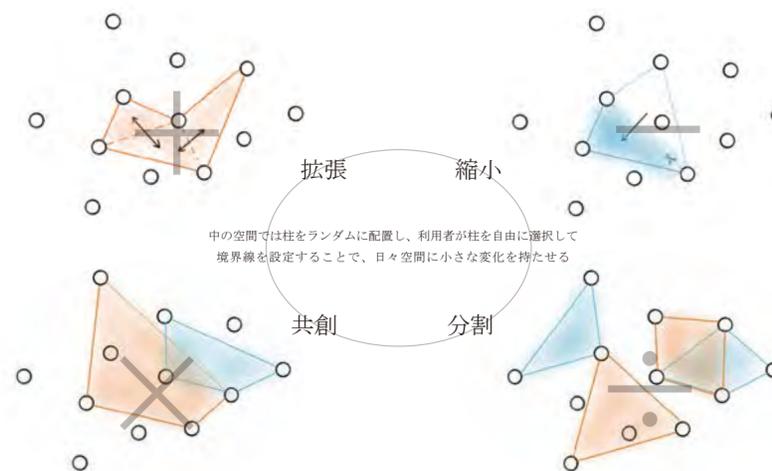
堤防とは近代的な産物で、何かと何かを高い壁で隔てる冷たい存在のように感じる。

しかし、本来都市とは変化し続けるものであり、その中にある空間もまた流動的であるべきではないか。災害は破壊ではなく、時代に応じた空間を生み出す契機として捉えることができる。変化を受け入れ、そのたびに新たな価値を生み出すことこそ、真の持続可能な空間のあり方ではないか。

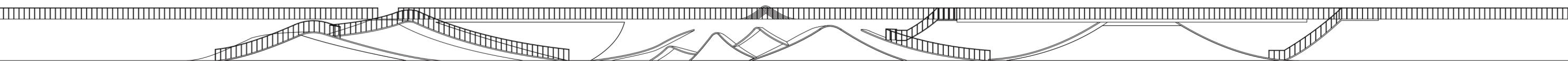
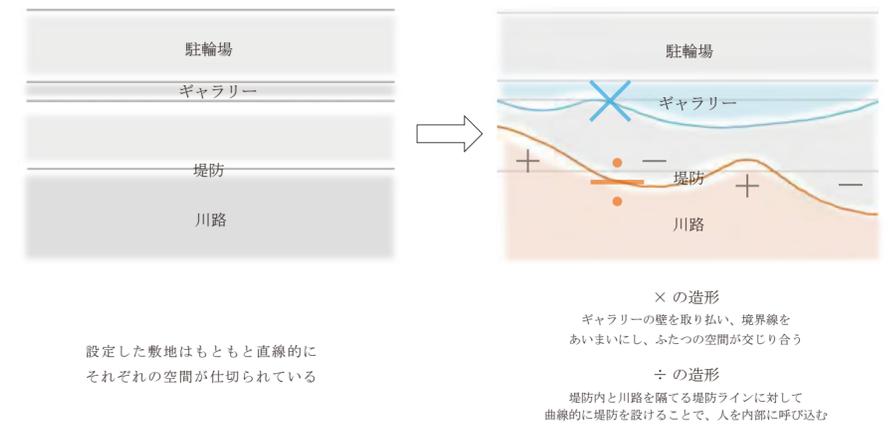
## 01: 四則演算的建築原理



## 02: 選択可能な柱による空間



## 03: 区画との方則の造形



# はじめに

## 災害の認識

災害は私たちの日常を断ち切り、既存の**秩序を崩壊**させるだけでなく、社会や空間のあり方を根本から問い直し**新たに再構築する契機**となっている。

## 問題提起

その中でも川の堤防はこれまで「**決して壊れてはならない防壁**」とされてきたが、気候の激化により堤防の決壊は想定外ではなくなっている。

## 設計の目標

本設計では、堤防の“下”という見過ごされがちな空間に、あえて**“流されることを前提とした建築”**を設計する。

災害後にも、再び地域の営みを生み出す**“再生の起点”**となる

「**守る・耐える**」建築

「**受け入れる・再構築**」建築

# 敷地選定

## 台東区立隅田公園

浅草駅から出てすぐの隅田川に沿う細長い公園であり、関東大震災の復興計画の一つとして整備された。駅から近く**地域駐輪場**としての役割をもっていたり、地下に**ギャラリー**があるなど、**キャラクター性**をもっている。堤防を降りると隅田川の向こう岸に東京スカイツリーなどを望むことができ、休日問わず**観光客**で賑わっている。



## 地域性と問題点

浅草は大正時代頃まで文化の中心として栄え、現代でもその町並みは残されておりその”日本らしさ”から外国人観光客の集まる人気の観光地となっている。人々の注目を集める場所となった一方でかつてのような**新たな文化の発信地**という側面を失いつつある。

# 着目した隅田川の堤防・ギャラリー

## 堤防



隅田川沿いの堤防は、地元住民のランニングや散歩コースとして親しまれ観光客も船着き場を通じて訪れる。しかし、堤防は依然として「**守る**」という役割に特化し、高さが高く街と川の間は分断され、日常の中で水辺の風景や流れを感じることは難しくなっている。だからこそ堤防をただの**防災の境界線**ではなく地域住民や観光客が自由に行き交う**“地域と文化”**をつなげる場をここに設計する。

## ギャラリー



隅田公園の地下にあるリバーサイドギャラリーは、長さ116mの直線的な空間になっているギャラリー。貸し出し形式のため、現在はあまり活用されていないのが現状。ギャラリーの入り口の多くのスペースは地元人の自転車置き場として使われており、その**本来の役割を十分に果たせていない**。本提案で新たな活用法を探る。

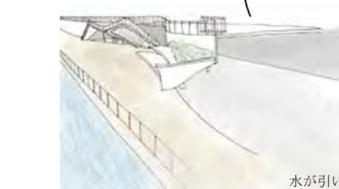
# 建築原理

かつてと同じ形ではなく、その時々状況に応じて**新しい姿**へと変化する



災害により、洪水が発生  
建築は**役割を終え**、静かに水に運ばれていく

## サステイナブルな建築



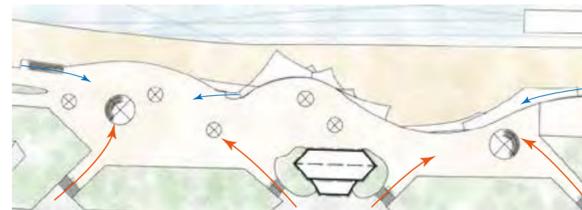
水が引いた後、そこには建築があった**痕跡だけ**が残る

しかし、それは破壊ではなく「**一時的な退場**」であり、**また戻ってくる**ことが前提のデザイン

# 設計（平面計画）

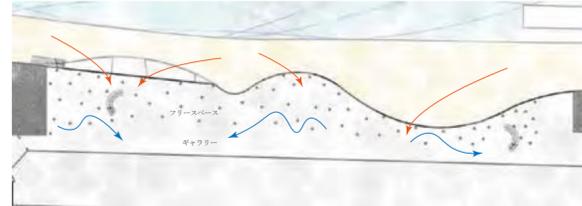
## 地上

地上は公園としての機能を維持しつつ、螺旋階段やスロープ状のファサードで**自然に地下へ誘導**する。さらに、堤防に四角演算の要素を取り入れることで、**道幅に広がり**と**狭まりの変化**を生み出し、川路との関係にもリズムをもたらす計画とした。

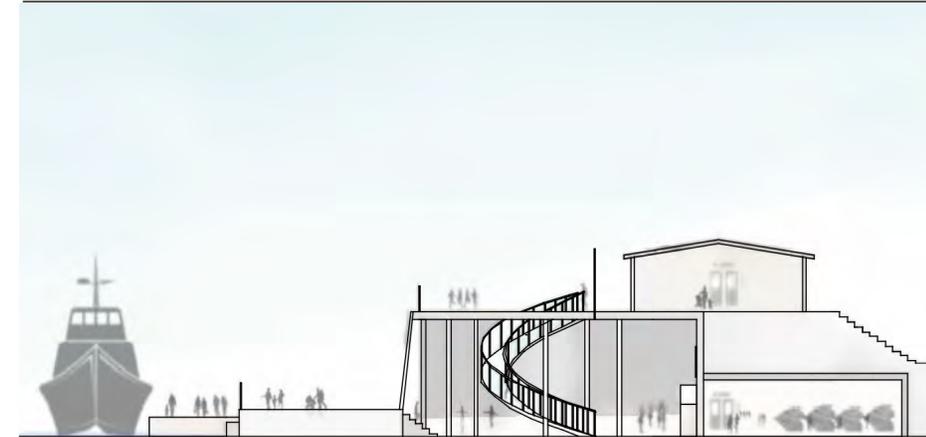


## 地下

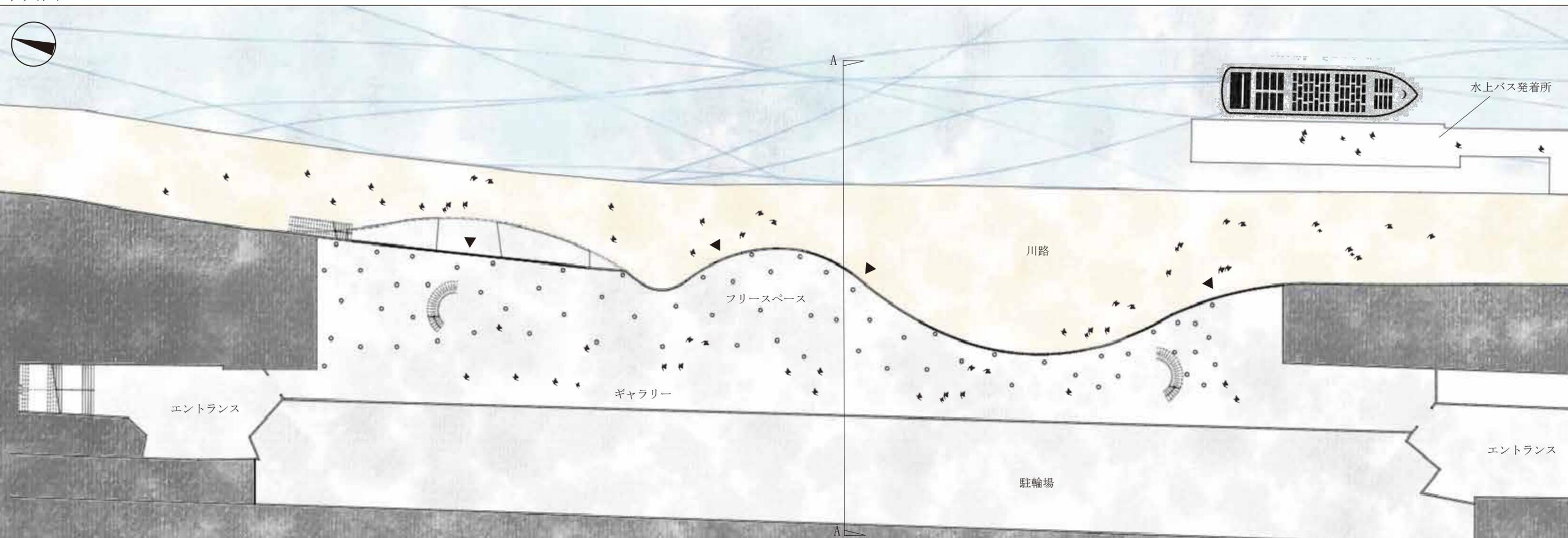
地下は、従来のギャラリーの壁を柱へと置き換えることで、フリースペースとギャラリー空間の**境界を曖昧**にし、自由な使い方ができる空間を生み出した。これにより、展示やイベントなど多様な活動が交差し訪れる人々の動きや視線が自然に広がる計画とした。



# A - A' 断面図 S=1:200



# 平面図 S=1:200





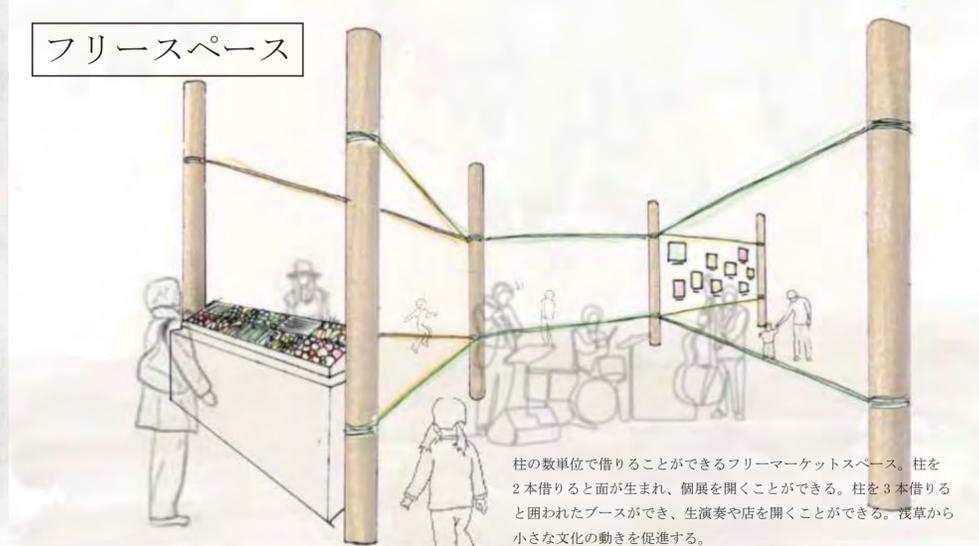
地下空間が、船着場を起点としてその延長線上に配置されているため訪れた人を自然な流れで誘い込むことができる。水辺の解放感と堤防の**レベル差**を活かし、視線の変化を利用してより **GLを意識させる**。

ギャラリー



ギャラリーには浅草が文化の中心であったところの伝統工芸品を展示し、街の記憶を取り戻す。浅草の元からあるギャラリーの機能を活かしつつ、一辺の壁をなくし、ギャラリーとフリースペースの境界をあいまいにすることで繋がりを持たせた。

フリースペース



柱の数単位で借りることができるフリーマーケットスペース。柱を2本借りると面が生まれ、個展を開くことができる。柱を3本借りると囲われたブースができ、生演奏や店を開くことができる。浅草から小さな文化の動きを促進する。

屋外



堤防の壁面は緑化を施し都市に暮らす人々が自然との距離を縮め、生態系と触れ合う場を生み出している。それは単なる景観の向上にとどまらず、人々が季節の移ろいや生物の営みを感じられる場となり自然との共生を意識するきっかけとなる。